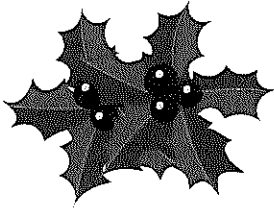


こどもたち
TEKNA

2022年クリスマス号



クリスマスの思い出

森泉 弘次

現代では、クリスマスはクリスチャンにとってもノンクリスチャンにとっても一年のうちで最も楽しい日の一つとなっています。しかし同じ楽しい日でも両者にとってその意義はまったく違います。ノンクリスチャンにとってはプレゼントのやりとりをする楽しいだけの日ですが、クリスチャンにとってクリスマスは、人類の罪を担って十字架の死を遂げた救世主、イエス・キリストの誕生日であり、神の独り子イエス・キリストの受難を予表する日でもあるのです。人間の世界を照らす神の光を暗闇は理解しなかったという記述は、この日生まれた神の独り子の悲運を早くも暗示しています。羊飼いたちは夜もすがら野宿して羊の群れを見守っていたとありますが、海拔800メートルのこのあたりは、冬季になると肌を刺すような寒さで野宿などできるものではありません。11月になると牧童たちは野宿をやめます。昔、道東オホーツク海沿岸に近い小清水高校の英語教師として働いていたとき、冬季、三歳児（女の子）をふくむ家族3人で銭湯から町営住宅への帰途、酷寒で鼻毛が氷結して痛くなったことを思い出します。いずれにせよ、救い主は酷寒（北海道語でいう「しばれる晩」）のベトゥレツヘムで生まれたのであります。おお、寒（さむ）！

以上の救い主の誕生秘話を思い出すと、寒がりのわたしも、がんばろうという気になります。ルターがあのかすばらしい注解（『マリアの讃歌 他一篇』岩波文庫）をほどこしたマリアの賛歌を文語訳で全文引用します。

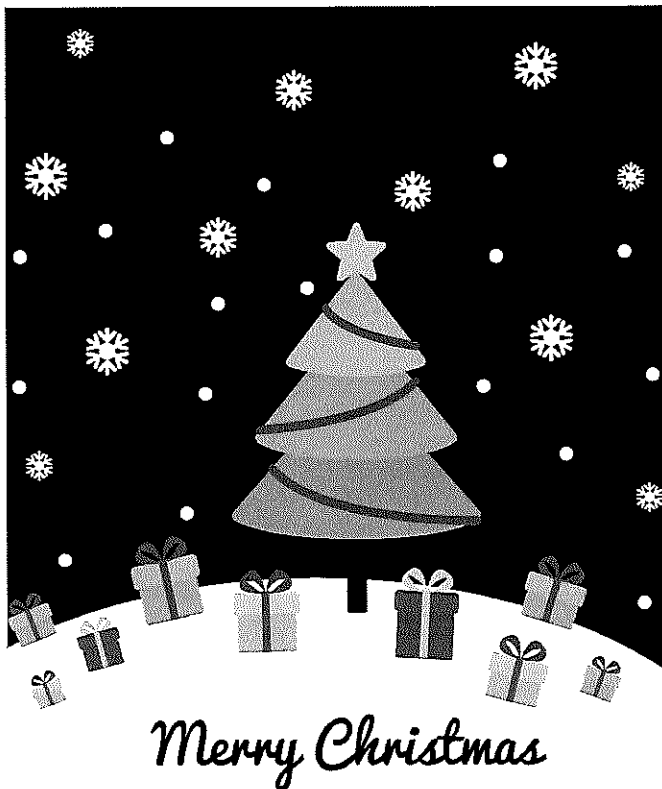
わが心、主を崇（あが）め、わが霊は、わが救い主なる神を喜び奉

（まつ）る。その卑女（はしため）の卑しきをも顧（かえり）み給へばなり。視（み）よ、今よりのち満（よろず）世の人、われを幸福（さいわい）とせん。全能者、われに大（おほい）なる事を為したまへばなり。その御名は聖なり、その憐憫（あわれみ）は代々（よ）よ、畏（かしこ）み畏（おそ）るる者に臨むなり。神は御腕（みうで）にて、権力（ちから）をあらはし、心の念（おもい）に高ぶる者をちらし、権勢ある者



を座位（くらゐ）より下（おろ）し、卑しき者を高うし、飢えたる者を善きものに飽（あ）かせ、富める者を空しく去らせ給ふ。また我らの先祖に告げ給ひし如く、アブラハムと、その裔（すえ）とに対する憐憫（あはれみ）を、永遠（とこしえ）に忘れじとて、僕（しもべ）イスラエルを助け給（たま）へり

全文を引用したのはこの格調正しい文語文を声を出して読んで頂きたいからです。クリスマスのはらむ神の恩寵を感じとるのにこれ以上の方法はないと信じるからであります。このマリアの賛歌を文語訳で声を出して読み上げることにより、クリスマスをお迎えする準備はないと信じます。皆さまの御健康を心よりお祈りしつつ、隔筆いたします。



MJM 東京のメールアドレス

mjmtokyo.tekna@gmail.com

毎月の例会のお知らせは e メールでご案内しています。
登録がまだの方は、メールをください。
よろしく願いいたします。